

「エーゲ海の巡り合わせ」

名古屋市緑区在住 小島邦夫・春枝

私の中で「修太先生」は名前だけが先行していました。2年前、主人と出かけたエーゲ海の旅で同じツアーに参加されていた石崎たづ子さんに会った時から、「修太先生」の名前が景色を見る度に耳に心地よく響いてきました。こんな素晴らしい風景を描かれる「修太先生」とは・・・一体！どんな人なのかしら・・・？興味がわいてきました。ミコノス島で修太先生に教えられたという風景のポイントを見る為にレンタカーで走り回り、結局、わからなかったことも良い思い出となっています。その時から「修太先生」という名前が、私の頭の中から消えなくなりました。日本に帰ったら絶対！先生の絵を見たいという気持ちで一杯になったのです。エーゲ海の旅から・・・丁度1年後の昨年の9月広島で油彩展があると聞き

石崎さんにも会いたい気持ちから、主人と二人で車を飛ばして駆けつけました。想像以上のすばらしい絵にただただ感動するばかり・・・色彩の美しさにうっとり・・・。勿論 名前だけだった修太先生にもお目にかかり想像以上にステキな方でした。ダンディで口髭がとてもよくお似合いで、でもチョップリシャイでそして子供の様に目をキラキラ輝かせて絵のお話を熱心に聞かせて下さり、先生の暖かいお人柄に大ファンになってしまいました。又去年の暮には東京・銀座展にもお邪魔し、広島とは又違った色づかいの絵にふれ、ますますファンになってしまいました。そしていよいよ名古屋にも来ていただけることになり嬉しき限りです。 時まさに 万博 で、あつ～い暑い名古屋です。先生の絵は見るだけで

元氣 と 心の安らぎ をいただける不思議な絵です。一人でも多くの方に見ていただき感動していただきたいと友人・知人に宣伝中です。今回はどんな絵を見せていただけるのかとても楽しみです。



DM作品・紹介



「ヴェネツィアの海」10F 油彩

サミット会議が開かれたこともあるこのヴェネツィア沖の建物は周囲を海で囲まれながらもごく自然に存在している。いろんな歴史を見てきただろう・・・時の流れ。海の色は刻々と変わりながらもゆったりと優しく建物のある島を守っているかのようだ・・・。



「幸せのリビングルーム」

愛知県知多郡在住 山本重穂

私は結婚して名古屋に住む事になったのが2003年の11月でした。思えば、大阪でお勤めしていた頃は、毎年恒例の行事で先生の絵の個展を見に行くのが楽しみで・・・森崎先生、石崎さんにお会いするのも楽しみでした。私の住むこの土地は、とても大阪での環境と違い自然の多い場所です。それにはとても驚きました。でも人も自然もやさしくて先生の絵と同じ様で・・・リビングに飾った絵だけは私の独身時代と変わらず、その時代を思い出させてくれるのです。気持ちも自然に和み・・・。名古屋で個展をして下さると聞き、うれしくて。先生の絵が見れる。石崎さんにもお会いできる。ステキな縁を運んでくれます。



初めて主人と先生の絵を見て、感想を聞けるのが私の楽しみの一つでもあります。先生の描かれる絵と色は、私達の部屋の中にやさしい風を感じさせてくれ、部屋の一部の風景になっていてくれます。ステキな絵にありがとうございます。

お茶をしながら

「我家の家宝」

名古屋市瑞穂区在住

堀地豊彦

森崎先生と初めて御会いしたのは、神戸の阪急百貨店での個展会場に、幼い長女を連れて家族3人でお邪魔したのが出会いでした。私自身は、その数年前から画商の石崎さんから画家の事をよく聞いておりましたので、初めて御会いした様な気がしませんでした。あたたかいオーラが全身からあふれ魅了されました。その後、個展にも何度か足を運び作品も分けていただきましたが、100号の「港の立ち話」や「闘牛のはじまり」はとても気に入っておりますし、特に「プローニュの森」80号は見るだけで気持ちが落ち着いてくる作品です。何年か前・・・私のある祝い事で記念として描いていただいた家族4人が公園で散歩している6号の



風景の作品は、我家の家宝としてリビングに飾っております。幼かった長女も高校2年、下の男の子も中学1年になり、この絵を見るたびにこれからも子供達はどんどん成長しやがて旅立っていくのでしょうか、この絵の中の家族の様に・・・いくつになっても、絵の中の家族でありたいと願っています。名古屋で御会いできるのを家族一同とても楽しみにしております。 2005 夏



愛地球博
EXPO 2005 AICHI JAPAN



名古屋名物



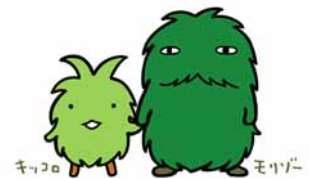
画家の視線 シリーズ

「美しい風景の中に」

あなたが一番好きな風景は？と尋ねられたら私は南仏と答えます。南仏の太陽と美しい海、自由奔放（小さなことにこだわらずのんびりといいかげんに）な生き方の人々。自然の中に溶け込んだ家並・港 どこを切り取っても絵になるのです。いいかげんな人々も自然との融和という点については、とても厳しい考え方をもっているのです。自然の美しさを次世代に継承しなければならないと。たとえば家が古くなり建て直す場合でも、屋根の色から壁の色まで自然の風景とマッチしなければ NON なのです。おのずと昔からの屋根の色や壁の色になるのです。統一された美しさがそこにあるのです。自然との融和への考え方は今はじまったことではないのです。今、開催されている「愛・地球博」のテーマの一つに自然との共生がかかげられています、美しい地球をいつまでも、次の世代へ。納得です。美しい地球に我々は生かされているのですから。



森崎 修太



お知らせコーナ

今後の「修太個展」予定

- | | | |
|----|-----------|-------|
| 06 | 1/24~1/30 | 札幌三越 |
| 06 | ゴールデンウィーク | 福岡三越 |
| 06 | 7月中旬 | 神戸大丸 |
| 06 | 秋頃 | 広島そごう |
| 06 | 秋頃 | 京都大丸 |
| 06 | 秋頃 | 仙台三越 |

正式日程が決まり次第 H.P. に UP します！

